

2019年度秋季入学

弘前大学大学院農学生命科学研究科
(修士課程)

学 生 募 集 要 項

【協定校推薦特別選抜】

弘 前 大 学

目 次

弘前大学大学院農学生命科学研究科修士課程

2019年度秋季入学者学生募集要項（協定校推薦特別選抜）

1. 募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願手続	1
4. 選抜方法	2
5. 合格発表	2
6. 入学手続	3
7. その他	3

研究科案内

1. コース・分野別研究分野の研究内容	4
2. 課程修了の認定及び学位	6
3. 本研究科の理念と教育課程構成上の特色	6
4. 社会人入学者に関する長期履修学生制度などについて	7
5. 入学料・授業料の免除・徴収猶予について	7
6. 海外協定校からの留学生に対する授業料等の免除等措置について	7

◇出願用所定用紙

- No.1 入学志願票等【協定校推薦特別選抜用】
- No.2 志望理由書
- No.3 推薦書
- No.4 入学確約書
- No.5 あて名票（2枚）・・・（省略）
- No.6 検定料払込取扱票・・・（省略）

弘前大学大学院農学生命科学研究科（修士課程）学生募集要項

◆専攻，コース，分野，研究分野及び入学定員

専攻	コース	分野	研究分野	入学定員
農学生命科学	生物学	基礎生物	分子細胞遺伝学，植物環境生理学，発生生物学，植物分子生理学，動物生理学，発生・生殖生物学，植物細胞生物学，分子発生学	60名
		生態環境	動物生態学，進化生態学，森林生態学，植物分類学，動物分類学	
	分子生命科学	生命科学	分子生物学，生化学・分子生物学，生化学・分子遺伝学，天然物化学，免疫生物学，動物生理学，細胞分子生物学	
		応用生命	天然物有機化学，酵素化学，環境微生物学，応用微生物学，生化学，植物生化学	
	生物資源学	食料開発	作物育種学，作物ゲノム学，植物遺伝育種学，構成的微生物学，分子栄養学，食品機能科学，食品物性機能制御学，食品安全生理学	
		生産環境	昆虫生理学，植物病理学，土壌学，環境植物学	
	園芸農学	園芸農学	果樹園芸学，家畜飼養学，飼料利用学，農業機械学，蔬菜園芸学，花卉園芸学，作物学，作物生態生理学	
		食農経済	地域協同組合論，食料経済学，農業経営管理学，地域資源流通学，国際食品マーケティング学，農村社会学，国際フードビジネス論，国際農業開発論	
	地域環境工学	農業土木・農山村環境	水利施設工学，水利環境工学，農地環境工学，農地環境物理学，農地環境保全学，地域環境システム学，基盤造構学，地域環境利用学，地域環境計画学，山地環境保全学	

◆試験実施日程

2019年度秋季入学（2019年10月入学）

選抜方法	出願期間	試験実施日	合格発表日
協定校推薦特別選抜	2019年 4月1日（月）～4月5日（金）	（出願書類審査）	2019年 5月16日（木）

弘前大学大学院農学生命科学研究科〔修士課程〕

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

◎農学生命科学専攻

1 概要

農学、生命科学及び環境科学に関連する、広範囲な技術を理解し、熟練した地域社会の発展に貢献できる高度専門技術者、国際的視野をもつ優れた技術者並びに時代の要請を先取りし先端的研究に挑戦できる研究者の養成を目指します。

2 求める学生像

- ・特定の専門分野をより深く学ぶ探求心を持った人。
- ・自らの専門分野のみならず、関連の専門分野を含め、より広く専門知識の習得に意欲を持った人。
- ・知識や情報を集めて自らの考えを導き出す課題解決能力の習得に意欲を持った人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

農学、生命科学、環境科学に関する基礎学力を有すること。

4 入学者選抜の基本方針

農学、生命科学、環境科学に関する基礎学力、研究に対する探求心、意欲等を評価するために、各選抜（一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜）とも、原則として出願書類を基礎資料とする口述試験により選抜します。

【生物学コース】

1 概要

生物の基本的な生命活動に見られる普遍性と個体の形態や行動に見られる多様性は、DNAにコードされた遺伝情報と周囲の環境との相互作用を通じて形成されます。本コースでは、発生、エネルギー代謝、適応、進化などの生物活動の基本的プロセスの成立要因とそのメカニズムの解明や、個体と環境の相互作用を通じて生成される動的・複合的生態システム及び生物多様性に関する教育研究を行います。さらに、これら学問研究を通じて、生物学分野の研究者、農業や食品関連のバイオテクノロジー技術者、生物生態系の保全に関わる専門技術者の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・ライフサイエンスに強い関心を持ち、基本的な生命現象の解明に挑戦しようとする人。
- ・生物の生態や進化に興味を持ち、生物学を通じて環境問題の解決を目指そうとする意欲を持つ人。
- ・創造性豊かで、何事にも積極的に取り組み、個性的で知的好奇心が旺盛な人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

基本的生命現象のメカニズムや生物の多様性、環境適応・進化に関する大学学部程度の知識を有すること。

【分子生命科学コース】

1 概要

数多くの生体分子の化学反応（酵素反応系）により、生命は恒常的・持続的に維持されています。それら反応系を利用した科学技術は、次世代の多方面にわたり期待されています。本コースでは、生物の持つ機能や反応機構の解明、及び生物による物質生産とその制御に関する専門的な知識及び技術を身に付け、国際的な視野のもと社会で活躍できる研究者、高度専門技術者並びに大学院博士課程へ進学する人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・生物の機能を分子レベルで解明することに情熱のある人。
- ・新しい分野に果敢に挑戦しようという意欲と積極性を有する人。
- ・成果を人類の福祉に役立てたいという高い理想を持つ人。
- ・既に社会で技術者や研究開発部門の研究者として働いており、更に高度な技術や知識の修得を希望する人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

生命科学に関する基礎知識を有すること。

【生物資源学コース】

1 概要

環境と調和しつつ持続的に、地球人口への十分な食料の供給を可能にするために必要とされる、食用植物の新品種の育種技術、食用植物の生産に関わる土壌・病害虫管理及び食品の機能・安全に関わる研究・開発に携わる人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・生物資源の開発・利用と生産環境の制御に深い関心のある人。
- ・生物資源とその環境に関する問題の解決能力を研鑽し、修養しようとする意欲のある人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

一般生物学、生化学、分子生物学の基礎知識を有すること。

【園芸農学コース】

1 概要

持続可能で、かつ、多面的機能を維持した農業の確立並びに人間生活の実現を図るために、農業生産技術の開発、農業の活性化、食と環境の改善に貢献する研究を行っています。それらを踏まえ農業生産領域と経営経済流通領域において専門技術と知識を習得させながら、各専門領域の諸問題の発見、解決できる能力、実行力のある人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・食と農に関わる地域社会や国家的なレベルで生起している様々な問題に関心のある人。
- ・農業技術面並びに社会経済面からの総合的な解決策について学ぶ意欲のある人。
- ・本コースで学んだ知識や理論を基に産業、教育、文化、地域社会等に貢献する意欲のある人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

食と農に関わる生産技術だけでなく、その社会経済性にも強い関心を持ち、園芸農学に関する基礎知識を有すること。

【地域環境工学コース】

1 概要

食糧基地として期待される北東北の自然、風土にマッチした持続的発展可能型農業の形成と農村地域社会の定住条件の整備が21世紀の大きな課題となっています。その中では事業計画・実施主体のソフト面の問題の検討も必要となっています。そこで、自然環境の保護・保全にも配慮しつつ、生産基盤の整備・充実、及び地域住民の生活環境の整備と計画手法の開発などに関する教育を行い、高度な専門的知識と技術を持ち、自発的な問題解決能力を備えた人材の育成を目指します。

2 求める学生像

- ・国内・海外を問わず農山村問題や地域環境などの地域的課題に関心を持つ人。
- ・学部段階で学んだ専門分野に拘わらずに課題に必要な分野を柔軟に学ぶ姿勢を持った人。
- ・実践的課題への取り組みを通して、理論を学ぶ姿勢を持った人。

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

自主的な問題解決能力や論理的な思考能力を身に付けておくとともに、地域環境工学分野に関する基礎知識を有すること。

弘前大学大学院農学生命科学研究科修士課程 2019年度 秋季入学者 学生募集要項 (協定校推薦特別選抜)

2019年度秋季入学者（2019年10月入学者）の「協定校推薦特別選抜」については、以下により行う。

1. 募集人員

専攻	コース	募集人員
農学生命科学	生物学	若干名
	分子生命科学	
	生物資源学	
	園芸農学	
	地域環境工学	

2. 出願資格

次の各号の要件をすべて満たす者とする。

- (1) 本学の協定校に在籍又は協定校を卒業した外国人留学生
- (2) 志望するコースと関連する系統の専門教育を受けた者
- (3) 学業成績・人物ともに優れた者として本学の協定校の学長又は学部長（研究科長）から推薦され、合格した場合には入学を確約できる者
- (4) 次のいずれかに該当する者
 - ① 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2019年9月までに修了する見込みの者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者又は2019年9月までに修了する見込みの者であって、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認められた者

3. 出願手続

3-1 出願書類等

志願者は、以下の書類等を一括とりそろえ、所定の期日までに提出すること。なお、郵送の場合は書留速達便とすること。

	書類の名称等	摘 要	所定用紙
1	入学志願票等	本研究科所定の用紙に必要事項を記入すること。 (入学志願票・写真票・受験票・振替払込受付証明書貼付台紙)	No.1
2	卒業（見込）証明書	出身学校所定のもの	/
3	成績証明書（厳封）	出身学校所定のもの	/
4	志望理由書	本研究科所定の用紙を用いて作成すること。	No.2
5	推薦書	協定校の学長又は学部長（研究科長）が作成したもの。	No.3
6	入学確約書	本研究科所定の用紙を用いて作成すること。	No.4
7	あて名票	本研究科所定のシール2枚に記入すること。	No.5
8	検定料 30,000円	本研究科所定の用紙を用い、最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行で払い込むこと。 注) 海外から外国送金により検定料を納付する場合は、3-3 外国送金による検定料の納入方法により手続きすること。 *国費外国人留学生については、検定料を必要としないが、在学する大学が発行する「国費外国人留学生証明書」を提出すること。	No.6
9	住民票	・日本に在住の者は、市町村発行の「住民票」 ・海外に在住の者は、その国の「戸籍謄本」又は「市民証明書」	/

※提出書類のうち、英語以外の外国語で記載されたものについては日本語訳もしくは英訳を添付すること。

3-2 出願期間

2019年4月1日(月)～4月5日(金)

窓口での受付時間は各日とも午前9時～午後5時までとする。郵送の場合、出願期間最終日必着とする。

3-3 外国送金による検定料の納入方法

次の要領に従って、検定料 30,000 円を海外の金融機関から送付すること。なお、送金には時間がかかるので早めに手続きし、必ず出願期間の最終日までに指定口座に到着するように行うこと。

〈送金関連事項〉

【送金種類】 電信送金
【支払方法】 口座振替
【支払手数料】 依頼人負担
【送金金額】 30,000 円
【送金目的】 検定料

〈送金先〉

【金融機関名】 青森銀行
【支店名】 弘前支店
【口座の種類】 普通
【銀行住所】 〒036-8191 青森県弘前市親方町 19
【スィフトコード】 AOMB J P J T
【口座番号】 201-1228599
【口座所有者名】 国立大学法人弘前大学 学長 佐藤 敬
【口座所有者住所】 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地
【口座所有者電話番号】 0172-36-2111

※送金依頼人は志願者の氏名とすること。

※日本国外から振込む場合、振込には別途「送金手数料」と「日本国内取引手数料」が必要となる。この送金手数料及び日本国内取引手数料は「依頼人負担」となる。

※日本国内取引手数料は、銀行窓口で必ず「依頼人負担」と指定すること。もし指定が行われなかった場合、青森銀行で取引手数料が差し引かれるため、弘前大学への入金が不足となる。この場合検定料を支払ったとは、みなされないので注意すること。

※送金後、送金手続き書類の(写)を他の出願書類と一緒に提出すること。

3-4 出願書類提出先

弘前大学学務部入試課

〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地 (電話) 0172-39-3973・3193

3-5 出願上の注意

- (1) 出願書類に不備のあるものは受理しない。記載事項に記入漏れ、誤記等のないよう十分注意すること。
- (2) 出願後の提出書類の内容変更(コース及び分野の変更)は認めない。
- (3) 出願後に現住所等に変更があった場合は、速やかに連絡すること。
- (4) 出願に関して不明な点がある場合は、入学検定料を払い込む前に、学務部入試課へ問い合わせること。

4. 選抜方法

入学者の選考は、入学志願票、卒業(見込)証明書、成績証明書、志望理由書、協定校の学長又は学部長(研究科長)の推薦書、入学確約書で行う。

5. 合格発表

合格者の受験番号を下記により発表するとともに、合格者には合格通知書を郵送する。なお、電話等による合否の問い合わせには一切応じない。

- (1) 日時 2019年5月16日(木)午前10時(予定)
- (2) 場所 弘前大学学務部入試課前掲示板

情報提供の一環として、本学ホームページ上にも合格者の受験番号を掲載します。
URL:<http://www.hirosaki-u.ac.jp/~nyu/>

6. 入学手続等

- (1) 入学手続の詳細については、合格者へ別途通知する。
- (2) 入学料及び授業料

入学料 282,000 円 (予定)

授業料後期分 267,900 円 (年額 535,800 円) (予定)

注 1) いかなる理由があっても、納付した入学料は返還しない。

注 2) 入学手続時までに入学金及び授業料の改定が行われた場合は、それぞれ改定時からの額が適用される。在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

7. その他

- (1) 身体に障害を有する者で、受験上及び修学上特別の配慮を必要とする者は、事前に学務部入試課へ申し出ること。
- (2) 出願書類等に記載された、志願者の住所・氏名・生年月日その他の個人情報、入学者選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項ならびに入学後の学務業務における学籍・成績管理、入学者選抜や教育課程改善のための調査・研究を行うために利用するものとする。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に利用しない。

研究科案内

1 コース・分野別研究分野の研究内容

専攻	コース	分野	研究分野	研究内容	担当教員
農学生命科学	生物学	基礎生物	分子細胞遺伝学	両生類、鳥類、哺乳類等のDNA及び染色体レベルにおける遺伝的多様性の解析に関する研究	黒尾正樹
			植物環境生理学	光合成代謝の制御機構と光合成産物の流転・輸送に関する研究	葛西身延
			発生生物学	モデル生物「細胞性粘菌」の形態形成、細胞分化に関する分子遺伝学的、細胞生物学的研究	福澤雅志
			植物分子生理学	植物分子生理学的手法を用いたラン色細菌や植物の基礎・応用的研究	大河浩
			動物生理学	海洋プランクトンの個体運動制御に関する分子生理学研究	西野敦雄
			発生・生殖生物学	扁形動物プラナリアの生殖様式転換機構に関する発生・生殖生物学研究	小林一也
			植物細胞生物学	植物の細胞分裂と細胞分化を制御する分子機構の研究	笹部美知子
			分子発生学	海産無脊椎動物（特にナマコ）の形態形成機構及び遺伝子発現調節に関する研究	吉田渉
		生態環境	動物生態学	野生動物の行動・生態と生息場保全・再生技術	東信行
			動物生態学	水生動物の行動、生態、進化的研究	曾我部篤
			進化生態学	昆虫などの無脊椎動物を用いた進化生態学及び群集生態学的研究	池田紘士
			森林生態学	森林植物の生態と保全に関する研究	石田清
				森林生態系における生物間相互作用の解明	山尾僚
			植物分類学	地域の植物相の解明、植物群落、特に森林群落動態の解明	石川幸男
			植物分類学	植物の生活史とその進化、分類、保全に関する研究	山岸洋貴
	動物分類学	昆虫を中心とした系統分類学、種多様性と生物地理の研究	中村剛之		
	分子生命科学	生命科学	分子生物学	ncRNAの構造と機能、生合成に関する研究、Functional RNomics	牛田千里
			生化学・分子生物学	翻訳の分子機構の解明、リボソーム生合成経路の研究、リボソームが関わる新規ストレス応答機構に関する研究	姫野俵太
			生化学・分子遺伝学	RNAを擬態するタンパク質の機能・構造解析、タンパク質合成異常回避システムの分子メカニズム	栗田大輔
			天然物化学	植物や微生物の生理活性物質の発見とその農業への応用	高田晃
			免疫生物学	癌の転移に関する研究、マウスの腫瘍細胞株の樹立、細胞運動の画像解析	畠山幸紀
			動物生理学	四足動物（とくに両生類）の四肢再生と皮膚再生、器官再生の分子機構の解明	横山仁
			細胞分子生物学	オルガネラ形成における膜動態の解析、微生物感染によって誘導される細胞内ストレス応答の解析	森田英嗣
		応用生命	天然物有機化学	生理活性二次代謝物の探索・合成及びその利用法の開発	橋本勝
			酵素化学	糖質ならびに糖質分解酵素の構造解析と応用	吉田孝
			環境微生物学	自然界に生息する微生物に関する研究	殿内暁夫
			応用微生物学	持続可能な化学品・エネルギー生産に向けた微生物機能の解析と有用微生物の分子育種	園木和典
			生化学	ミトコンドリア電子伝達系の低酸素適応に関する研究	坂元君年
			植物生化学	植物や微生物における物質生産の機能解析と応用	濱田茂樹
			生物資源学	植物育種学	イネ遺伝資源・有用形質の遺伝解析と育種的利用に関する研究
植物ゲノム学				ダイズの種子着色に関する研究	千田峰生
植物遺伝育種学	ウリ科作物における有用形質についての遺伝解析と育種的利用に関する研究	田中克典			
構成的微生物学	複数の微生物で構成されるモデル生態系の構築と微生物間相互作用に関する研究	柏木明子			
分子栄養学	生活習慣病を予防・改善する食品素材の探索と応用研究	前多隼人			
食品機能科学	地域の食資源から生理機能の探索と機能性成分の同定、並びに機能性成分の体内動態とそれに影響する食物因子の解明	岩井邦久			
食品物性機能制御学	食品成分の水和に関する研究	佐藤之紀			
食品物性機能制御学	食品の力学物性に関する研究				

専攻	コース	分野	研究分野	研究内容	担当教員
園芸農学	生産環境	食料開発	食品安全生理学	中枢神経系に対して作用を有する食品成分の薬理作用や毒性に関する研究	中島 晶
		昆虫生理学	昆虫生理学	昆虫の発育に伴い起きる細胞死の分子レベルでの研究	金 児 雄
			植物病理学	植物ウイルス、ウイロイド病の病原性と診断・防除技術の研究	佐野 輝 男 ※2021年3月 定年退職
				菌類の多様性と系統分類に関する研究	田 中 和 明
			土 壤 学	土壌有機物の存在状態と微生物による変化過程に関する研究	青 山 正 和 ※2021年3月 定年退職
				強酸性土壌における作物-土壌の相互作用に関する研究	松 山 信 彦
	環境植物学	植物の環境応答性遺伝子の機能と多様性に関する研究	赤 田 辰 治		
	園芸農学	果樹園芸学	果樹の成長生理、果実の品質に関係する成分の代謝生理	荒 川 修	
			リンゴの単為結果に関わる遺伝子および花芽形成遺伝子に関する研究	田 中 紀 充	
			リンゴ生産管理技術の開発研究、リンゴ園の気象生態に関する観測研究	伊 藤 大 雄	
			リンゴを中心とした果樹における、多収および省力化を目的とした栽培・生理学的研究	林 田 大 志	
		家畜飼養学	初期成長期の栄養制御による家畜の生産能力の向上並びに新規飼料資源の機能性評価に関する研究	松 崎 正 敏	
		飼料利用学	新規飼料資源の調製・利用に関する研究	房 家 琛	
		農業機械学	農産物の非破壊品質計測・情報技術の農業への応用に関する研究	張 樹 槐	
			リモートセンシングの農業精密管理への応用に関する研究 農産物の品質計測・産地判別・鮮度評価技術などの開発研究	叶 旭 君	
		蔬菜園芸学	蔬菜の発育生理、品質向上および育種、組織培養に関する研究	前 田 智 雄	
		花卉園芸学	花卉の繁殖・育種及び野生草本の利用や保護・保全	本 多 和 茂	
		作物学	作物の生産・品質並びに環境ストレス耐性に関わる機能形態と生理メカニズム	川 崎 通 夫	
		作物生態生理学	作物の環境ストレスに対する耐性遺伝資源の探索とその耐性メカニズムに関する研究、植物による放射性セシウム吸収除去法の確立	姜 東 鎮	
	食農経済	地域協同組合論	アジア地域を中心とする協同組合組織と青果物流通に関する研究 日本の農村地域における協同組織の生成と展開に関する研究	高 梨 子 文 恵	
		食料経済学	農産物・食品及び関連産業の国際的マーケティング戦略に関する研究 日本及びアジア諸国における農業・農村問題に関する研究	石 塚 哉 史	
		農業経営管理学	地域農業および大規模農業経営体のマネジメントについての研究	吉 仲 怜	
		地域資源流通学	バイオマスの流通や利活用に関する研究	泉 谷 眞 実	
		国際食品マーケティング学	農産物流通機構の機能に関する研究 中国における農民專業合作社の機能に関する研究	成 田 拓 未	
		農村社会学	地域農業振興策と農村活性化に関する研究 農協・生協などの協同組合における組織・事業に関する研究	正 木 卓	
		国際フードビジネス論	国際的なフードシステムの展開に関する研究、日本の水田農業政策に関する研究	佐 藤 加 寿 子	
		国際農業開発論	発展途上国における資源利用と地域住民の暮らしに関する研究	佐 藤 孝 宏	
	地域環境工学 農業土木・ 農山村環境	水利施設工学	水利施設の水利設計と魚道設計に係わる淡水魚の遊泳能力	泉 完 ※2021年3月 定年退職	
		水利環境工学	国内外の農山村における水資源および水環境に関する研究	丸 居 篤	
		農地環境工学	農地における土壌汚染などの修復	佐々木 長 市	
		農地環境物理学	積雪地域の普通畑および樹園地における窒素循環機構の解明	遠 藤 明	
		農地環境保全学	農地土壌をめぐる水・熱動態の解明・予測および農地土壌の保全に関する研究	加 藤 千 尋	
地域環境システム学		農地および農業生産基盤を支える各種施設の情報利用と管理・運用	加 藤 幸		
基盤造構学	農業施設構造物の力学的安定と性能機能評価に関する研究	森 洋			

		地域環境利用学	地中熱および地下水を利用した農業に関する研究	森 谷 慈 宙
		地域環境計画学	環境と調和し活力ある農村空間を実現するための整備手法	藤 崎 浩 幸
		山地環境保全学	山地における土砂災害防止・流域環境保全や利用についての研究	郷 青 穎

2 課程修了の認定及び学位

本研究科に2年以上在籍して、授業科目32単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（農学生命科学）の学位が授与されます。また、社会人入学者の場合、研究指導を受ける教員の承認のもとに、修士論文に代えて研究成果報告を選択することができます。

3 本研究科の理念と教育課程構成上の特色

本研究科は教育・研究上の理念として「生物・生命・資源・農業・環境」を柱に、基礎的・専門的知識とともに教養を備えた研究者及び高度専門技術者を養成することを目的とします。

教育課程構成では、博士課程進学まで視野に入れ研究者養成を目指す「学術研究プログラム」、修士課程2年間の履修により社会で活躍できる人材を育成する「実践研究プログラム」及び社会人に対しては「社会人入学者対応型の実践研究プログラム」を設定し、いずれのプログラムにも対応できる研究指導体制が作られています。

プログラム	専攻共通科目				専門科目等			合計履修単位
	必修	選択必修 (プログラム必修科目)	選択 (クロスコース科目)	自コース 科目	副コース科目 (隣接領域科目)	その他の 選択科目		
学術研究プログラム	研究方法論	2	学術特別研究Ⅰ	6				
	プレゼンテーション演習Ⅰ・Ⅱ	2	学術特別研究Ⅱ	6				
			学術特別演習Ⅰ	1				
			学術特別演習Ⅱ	1				
			学会等発表	1				
			科学英語	1				
小計		4	16	—	8	4	—	32単位
実践研究プログラム	研究方法論	2	実践特別研究Ⅰ	6	分析技術法			
	プレゼンテーション演習Ⅰ・Ⅱ	2	実践特別研究Ⅱ	6	インターンシップ			
			実践特別演習Ⅰ	1	特別講義A			
			実践特別演習Ⅱ	1	特別講義B			
			実践研究推進セミナー	1				
			キャリア開発セミナー	1				
小計		4	16	2	6	4	—	32単位
社会人入学者対応型実践研究プログラム	研究方法論	2	課題研究Ⅰ	3				
	プレゼンテーション演習Ⅰ・Ⅱ	2	課題研究Ⅱ	3				
			実践特別演習Ⅰ	1				
			実践特別演習Ⅱ	1				
			弘大テーマ科目	4				
			特別講義A	1				
		特別講義B	1					
小計		4	14	—	6	4	4	32単位

注) 「学術研究プログラム」と「実践研究プログラム」では、表記科目以外については修了要件の32単位を超えて履修可能です。

上記の表は、各プログラムの履修方法の概要を示します。専攻共通科目は、研究者又は高度専門技術者の素養として備えておかなければならない科目であり、専門科目等は各々のコースで開講する授業科目から選択で履修するものです。修士研究では、専門分野を“より深く”又は“より広く”学習するための「特別研究Ⅰ」及び「特別研究Ⅱ」を、あるいは多くの関連分野にわたる特定のテーマについて社会人入学者が従来の知見を補強又は再確認する「課題研究Ⅰ」及び「課題研究Ⅱ」のいずれかを選択します。

この他、入学当初から主指導教員1名のほか2名の副指導教員から濃密な研究指導を受けられること、専門的知識や技能を短期間に集中して修得できるように1年を4学期に区分するクォーター制が採用されていることも特色です。

4 社会人入学者に関する長期履修学生制度などについて

学生が職業を有しているなどの理由により、研究科の標準修業年限の2年を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する申し出があった時には、その計画的な履修を認めることができる制度を導入しています。

この制度が適用される学生は、社会人で職業を有している者の事情により4年を限度として在学することができます。

なお、長期履修学生として申請できる者は、入学手続者及び1年次在学学生で標準年限で修了することが困難であると判断される者です。許可された場合の授業料の年額支払いは、次のとおりです。

大学が定める授業料年額(535,800円)×2年÷長期履修期間(3又は4年)

また、教育上特別の必要があると認めるときは、夜間その他特定の時間又は時期に授業及び研究指導を受けることができます。

5 入学料・授業料の免除・徴収猶予について

入学料・授業料の免除・徴収猶予制度があります。

①「入学料」の免除・徴収猶予

経済的理由によって納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合のほか、入学前1年以内において、学資負担者が死亡又は風水害等の災害を受けた場合等の特別な事情により納付が著しく困難であると認められる場合は、本人の申請に基づき、選考の上、入学料の免除(半額)又は延納を認めることがあります。

②「授業料」の免除・徴収猶予

経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合には、本人の申請に基づき、選考の上、授業料の免除(全額又は半額)又は延納若しくは月割分納を認めることがあります。

詳細については担当(学生課 生活支援グループ)までお問い合わせください。

担当窓口：〒036-8560

青森県弘前市文京町1番地 弘前大学学務部学生課 生活支援グループ

電話 0172-39-3117 または 0172-39-3135

平日のみ 9:00 ~ 17:00

6 海外協定校からの留学生に対する授業料等の免除等措置について

海外協定校からの留学生に対し、本人の修学を支援するとともに本学と海外協定校との交流実績を高め、もって本学の国際化の推進に資することを目的とした授業料等の免除等措置を行っております。

① 対象者及び免除等

海外協定校から本学の大学院課程に入学した留学生 授業料等の免除

② 申請・許可

所定の様式による申請書を提出していただきます。申請書の提出時期は、当該学期ごとに定める時期とします。

申請があった留学生について、当該学期ごとに、予算の範囲内で全額又は半額を免除します。

詳細については担当(学生課 学生支援グループ)までお問い合わせください。

担当窓口：〒036-8560

青森県弘前市文京町1番地 弘前大学学務部学生課 学生支援グループ

電話 0172-39-3109

平日のみ 9:00 ~ 17:00

2019 年度秋季入学
弘前大学大学院農学生命科学研究科（修士課程）

入学志願票

（協定校推薦特別選抜）

		受験番号	※
ふりがな	生 年 月 日		性 別
氏 名	西暦 昭和 平成	年 月 日生（満 歳）	男・女
志望コース	志望分野	志望研究分野	希望する指導教員名
コース			
出願資格	国	大 学	学 科 課 程
	西暦・昭和・平成	年 月	（卒業・卒業見込）
志 願 者 現 住 所 （連絡先）	〒 - (ふりがな) 住 所 携帯電話 () - () - () その他電話 () - () - ()		
	国 籍		
有職者記入欄 (有職者のみ記入)	勤務先名称 勤務先住所 〒 - 電話 () - () - ()		

注 1) ※欄は記入しないでください。

注 2) □欄には，該当する項目にチェックしてください。

注 3) 記入は，黒のペン又はボールペンを用いて楷書で記入してください。

履 歴 事 項				
学 歴	西暦・昭和・平成	年	月入学	
	西暦・昭和・平成	年	月卒業	
	西暦・昭和・平成	年	月入学	
	西暦・昭和・平成	年	月卒業	
	西暦・昭和・平成	年	月入学	
	西暦・昭和・平成	年	月卒業	
	西暦・昭和・平成	年	月入学	
	西暦・昭和・平成	年	月卒業	
職 歴	勤務期間		勤務先名称	職 種
	西暦・昭和・平成	年	月から	
	西暦・昭和・平成	年	月まで	
	西暦・昭和・平成	年	月から 現在に至る	
資格・免許等	西暦・昭和・平成	年	月	
	西暦・昭和・平成	年	月	
賞 罰	西暦・昭和・平成	年	月	

注 1) 学歴欄には、小学校入学履歴から学校名を省略せずに記入してください。大学名には学部学科まで記入してください。

注 2) 研究生等の履歴がある場合は、学歴欄に記入してください。

注 3) 履歴中に虚偽の事項を記載し、又は当然記載すべき事項を記入しなかったことが入学後に判明した場合には、入学許可を取り消すことがあります。

□ 2019年度秋季入学
弘前大学大学院農学生命科学研究科
(協定校推薦特別選抜)

受 験 票

受 験 番 号	※	
志望コース	志望分野	志望研究分野
ふりがな		
氏 名		

写 真

(4cm×3cm)

出願前 3 か月以内
に撮影した正面向
き上半身脱帽のも
の裏面に名前を記
入すること

注) 受験票は、入学手続が完了するまで保管すること。

□ 2019年度秋季入学
弘前大学大学院農学生命科学研究科
(協定校推薦特別選抜)

写 真 票

受 験 番 号	※	
志望コース	志望分野	志望研究分野
ふりがな		
氏 名		

写 真

(4cm×3cm)

出願前 3 か月以内
に撮影した正面向
き上半身脱帽のも
の裏面に名前を記
入すること

□ 2019年度秋季入学
弘前大学大学院農学生命科学研究科
(協定校推薦特別選抜)

「振替払込受付証明書 (大学提出用)」

貼 付 台 紙

振替払込受付証明書 (大学提出用)
を貼付してください。

切り取らずに提出してください。

受 験 番 号	※	
志 望 コ ー ス		コース
ふりがな		
氏 名		

受験番号	※
------	---

弘 前 大 学 長 殿

推 薦 書

弘前大学大学院農学生命科学研究科（修士課程）入学志願者 _____ を協定校推薦特別選抜出願要件に該当するものと認め、下記により推薦します。

年 月 日

(所属機関名)

推薦者 (所在地)
(指導教員)

(職名・氏名)

印

◎ 入学志願者の研究経過・研究計画に対する所見及び能力・性格等について記入してください。

大学名又は研究科（学部）名

学長名又は研究科長（学部長）名

印

注) ※欄は記入しないでください。

受験番号

※

年 月 日

弘 前 大 学 長 殿

入 学 確 約 書

私は、弘前大学大学院農学生命科学研究科(修士課程)の入学試験に合格した場合には、
同研究科に入学することを確約します。

志願者住所

志願者氏名

印

※欄は記入しないでください。

※ 所定用紙 No. 5 あて名票 (添付省略)

※ 所定用紙 No. 6 検定料払込票 (添付省略)